【 会員からの投稿 】

最近の小事　part2

ＮＰＯ法人
宮崎ＣＡＬＳネットワーク
理事長　星野　隆幸

「夢」、小さい頃先生に言われた、努力すれば「夢」は叶うと、どこかで嘘だと思っていた。叶うのは「目標」で、叶わないのが「夢」であると、そんな捻くれた子供だった気がする。「夢」は見ればいい、いつだって見続ければいい、「夢」が人生を助けてくれる事もある、ただ、「夢」と「目標」を一緒にしてはいけないと思う。

「夢」に一歩近づけば「夢」は一歩遠ざかる、そしてまた一歩近づき一歩分遠のく、その繰り返しの中で目標が叶う。叶った目標はまた新たな目標を生み出す、私たちはその繰り返しの中で生きてゆく、私にも「夢」があった、いつの頃からか忘れていたが確かにあった。

卒業と進学そして就職、誰もが「夢」と希望を持ち晴れやかに新生活を始める、やがて希望は目標に変わり、それに向かって日々精進を重ねることになるのだろうが、今はまだ、初々しい１年生のようで、着慣れないスーツ姿がまぶしい。

さて、建設業界、建設関連業界に従事している私は、新社会人に「夢」を持たせる事が出来るのだろうか、私の暮す地方の小さい町、宮崎県日南市では、多少改善されたとはいえ相も変わらず休みは少ない、賃金は低く、現場作業で汚れる、まだまだ 3K と呼ばれた時代と大差ない日常を送っている、そうでなくても若い人材は都会暮らしに憧れて地方を離れて行く、公共事業に依存する体質は古いかもしれないが、地方の小さな町では他に代わる産業がない、または産業が発展しないそして長続きしないのも事実なのである。当然、建設業界に従事する人々の平均年齢は上ることになり後継者問題が浮上する、故郷日南市の平成 26 年度人口は、54,841 人、前年比－1,16%、平成 22 年に１市２町で合併した後も減少し続けている、さらに予算規模の少ない地方の事で、毎年発注される公共事業は減少の一途をたどる、人口の減少、公共事業費の削減そんな悪循環から抜け出ることが出来ず、業界内の組合員数も最盛期の半分以下の数字になっている。倒産でなく廃業する会社が多いのである。

しかし、建設業界も座して見ている訳ではなく、少ないながら後継者たちは新技術、新工法、そして、別業界への進出等いろいろな可能性に取り組んでいる、また、若い世代に建設業に興味を抱かせるため、小学校訪問等の活動を行い将来の人材確保へと繋がれば、人口減少等のマイナススパイラルから抜け出る事が出来るかもしれない。IT がどれほど進歩しようとも、最終的には人の力が地元を救うと切に願っている。最近、再稼働を含む原発問題が話題になっているようである、一時期、代替えで自然再生エネルギー特に太陽光発電が話題になっていた、個人的に、大規模メガソーラー発電には違和感を覚える、自然再生エネルギーは自然破壊エネルギー施設になっている。

宮崎県は観光を自慢していいと思う、豊かな太陽、青い海、清らかな川、緑豊かな森林、全てがそろった数少ない地方だと自負している、しかし、太陽光発電がビジネスとして成り立つとなったばかりに、いたるところに太陽光発電施設ができ始めた、中でもメガソーラー発電施設建設のため、緑豊か森林は伐採され、山は造成され、緑の木々の代わりに銀色に輝くソーラーパネルが山肌を覆うことになり、さらには、公共施設であるグランドでさえソーラー発電施設になった、施設工事に携わる建設業にとって確かに工事受注の機会が増えたことに違いはないが、ただ、一度壊れた自然は元に戻らない、そして、未来にこの豊かな自然を残すこともできなくなる、それでいいのだろうか、自然も大事、エネルギーも大事、ビジネスも大事そんな矛盾の中で何もできない、何もしない自分にも矛盾を感じて、それでも日々の事柄に流され「夢」はどこかに置き忘れ、目標さえも見失って、マイナススパイラルの渦の真っただ中でもがいている私に、桜の花の季節に毎年訪れる、新社会人の初々しさが少しだけ忘れたことを思い出してまた新たな「夢」を見させてくれるのかもしれない。